

おいしさ（きのこピザ）

1

テーマの設定理由

「おいしい」とは何か？ということが「おいしい」と感じる事なのか。子どもが味わって食べるという経験を本当にしているのか？という問いから、子ども自身が「おいしさ」とは何かを探求する楽しさを知ってもらいたい。

2

準備物

- ・オーブン
- ・フライパン
- ・クッキングシート
- ・盛り付け用スプーン
- ・きのこ絵本

3

食材

- ・椎茸【岩手県】
- ・ジャンボなめこ【長野県】
- ・大黒しめじ【長野県】
- ・あわび茸【長野県】
- ・牛乳
- ・バター
- ・塩
- ・小麦粉
- ・イースト



環境設定

1 導入

初めから現物のきのこを見せるのではなく、絵本を使うことで子どもが“きのこ”をイメージや想像でき、いろんな種類があることを感じてもらう。そうすることで前回のきのこ食べ比べで得た知識や経験から、主体的な言語表現が生まれるようにする。

環境設定

2 ピザ生地の観察

ピザ生地は参加している全ての子ども達が一人一個観察できるよう人数分用意する。

大人は最初見本を見せるが子ども達が徐々に触れるよう間を大切に、あえて手を貸しすぎない事で生地感触を自由に感じ取り叩く、伸ばす、潰す、こねるを好奇心から能動的に行えるようにする。。



環境設定

3 表現する

【自由をデザインする】
好き嫌いや乗せてみたいなどの子ども達の表現が生まれるように、選択できる環境設定を行う→種類ごとにお皿を分ける。

【不自由をデザインする】
個人活動になるが、その中に共同性「話し合い、協調生」が生まれる環境設定も行う→種類ごとに皿を分けるが、それを人数分は用意しない。

環境設定

4 共食

大人も子どもも関係なく、1人の人間としての食べた感想をお互いに問ひかけ「どうだった？」ながら共食する。

何を乗せたのか？子ども達に問ひかけ、表現の言語化を促す。



環境設定

5 活動後

活動が終わった後にすぐ行うことで、興味や探究を維持できる。

掲示や絵本なども用意することで活動がより深まる。

環境設定

子どもの姿

導入と観察



「これなに?」「今からなに作るの?」と興味津々な子どもたち。きのこが見えると「きのこ!」と嬉しそうにする様子もあれば、「なんで今日も(きのこのな)?」と前回と同じ食材であることを思い出して不思議がる様子もありました。



ピザ生地が出てくると、「これなに?ねんどみたい。」「パンみたいね〜!」「あつくないの?」など、口々になんだろう、と想像を膨らませる姿がありました。

触ってみる?とそら先生が聞くと、「りのも!」「さわりたい!さわりたい!」と大興奮。ですがその声とは対照的に、ツンツン…と生地をさわる子どもの手はそっと慎重な動きでした。



表現

そら先生の生地の広げ方を見た後、グーやパーなど使って生地をトントントン!と叩きながら、思い思いに生地を広げていきます。粘土のように両手で握って感触遊びのような姿も。また、最初はじっと周りのお友達が生地をさわる様子を観察して、しばらくしてからぼくにもできるかな、やってみようかな、と慎重に動き出す子どももいました。



だれのピザか、わかるかな?



ソースやきのこ、チーズのトッピングでは、ソースもきのこも山盛りにした子どもや、なめこを2本だけにしたり、生地は丸いまま山のようにきのこをトッピングしたり、「チーズだけがいの!」と具材を厳選して盛り付けたりなどなど…『ピザ』という概念にとらわれず、それぞれの個性が存分に表現された場面でした



き・き・きのこ♪の歌を口ずさむ様子も♪
また、「チーズのせる?」自分が使い終わったチーズのお皿を渡してお友達を気遣う姿や、何を乗せようか悩んでいるお友達に、おすすめきのこを1本のせてあげる、そしてそれを受け入れてくれる、そんな心温まる姿も見られました。



子どもの姿

共食



ピザが焼きあがると、一目散に椅子に座る子どもたち。今か今かと自作のピザの登場を待っていました。ところが、いざ自分のピザが手元に届くと、じっとピザを黙って見つめて、「これ〇〇ちゃんの？」と自分のものか確かめる姿がありました。焼く前と、焼きあがった後のピザの違いに少し驚いたようです。

焼きたてのピザはまだまだ熱いのですぐには食べられません。食べたい気持ちを我慢して、「ふーふーふー！」と冷まします。冷めるまでの待ち時間では「ちょっとだけあつい～」と笑いあったり、自然と自分のピザやお友達のピザを観察する姿もありました。「ドーナツだよ」「みてみて、チーズのおやまみたい！」「なめこどれ？これだ！」「はるくんの、いい感じに焼けてるね～」「わかちゃんのピザもいい感じ？」「いいにおいするよ、かいてごらん？」などのやり取りの声が聞こえてきました。

食べられる熱さになると、「おいし～い！」とさらに笑顔に^^ 具のきのこから一つずつ食べたり、上からかぶりつくように食べたり…最後まで食べられなくても自分で作ったものを食べられる、というこの瞬間に心が満たされている子どもの姿がみられました。



活動後



その後の粘土活動に、今回の食育での体験があそびとして表れていました。なにつくってるの？ときくと、「ピザ！」と教えてくれる子どもたち。ぎゅっ！ぎゅっ！と手に体重を乗せて、しっかりとまるい生地を伸ばすところから、再現がリアルです。きのこに見立てて粘土をちぎると、広げた生地（粘土）に乗せていきます。小さな粘土を転がして丸め、細長くしてキノコやチーズを再現する様子もありました。

出来上がると、「みてみて、じゃじゃーん！」と笑顔で大人に見せてくれる姿がありました。

たくさんピザを作った後はお店屋さんに変身！ピザ屋さんごっことして遊びが広がっていきました。



振り返り

保育者

の 気づき



先生コメント

先月のキノコからの流れで、今回はキノコを使ったピザ。“調理”という新しい行程が加わったことで、さらに子ども達の探究にも新しい発見が増えたように思います。子ども達も日々心も体も成長していて、今まで通りの食材との出会いには、どこか予想通りと言うか、先の見通せるようになってきたところであった様に思います。その中での“調理”という新しい探求の枝が広がったことで、子ども達にとっても、僕ら見守る大人にとっても、双方に新しい発見や出会いがあったように思います。“食”には、味だけではなく、彩り、調理法、盛り付け方、器など、様々な芸術が絡み合っています。それに、少しずつでも深めていき、出会っていける活動にしていければと思っています。

坪井



先生コメント

今回は前回と同じ素材であるきのこを使って、ピザ作りを行いました。

ピザといえば、平たい記事に満遍なく具材を乗せて…とありきたりな形状を想像してしまいましたが、子どもたちが作ったピザは山のような丸い生地にさらに山盛りの具材が乗っていたり、ソースとチーズピザだったり、具材が練り込まれたようなものだったり…とそれぞれの個性あふれるものでした。みんなが一つひとつ、大切に作ったピザは、ただのピザではなく、自分の“好き”や“こうしたい”という気持ちがたっぷり表現された立派な作品だと感じました。また同時に、固定概念で活動をとらえてしまっていた大人の想像力の乏しさを実感し、まだまだ子どもたちから学ぶべきものがたくさんあると体感させられました。

今回は大人もみんなと一緒にパクリ！おいし～い！〇〇先生も？とお話ししながらみんなで一緒に食べたピザは格別でした♪
修行



先生コメント

今回は前回と同様、食材はきのこでしたが、前回の応用でみんなできのこを使ったピザを作りました！

始まる前に、子ども達から、「なんで今日もきのこ？」という声があり、前回の内容をしっかり覚えていることにとても関心しました。また、そら先生が「このきのこの名前なんだっけ？」と聞くと、「なめこ！」「椎茸！」と次々と正解していて驚きました。

ピザ生地をこねる工程を楽しみ、自分の好きなきのこを好きなだけトッピングして、上にチーズをたっぷり！作る工程から完成まで、子ども達の楽しそうな表情が沢山見られました。

最後ににこにこのみんなが私にピザを作ってくれました。「このキノコは好き？」「チーズ好き？」と沢山質問してくれて、完成したピザが、山盛りのきのこにチーズもどっさり乗ったハイカロリーピザでしたが(笑)、みんなの愛情が籠ったピザはとても美味しかったです！！別の日に、給食でなめこのお味噌汁が出た時に、「これなめこだ！」

「きのこ！」と子ども達から聞こえてきて、食の探求の活動を通して、食材や食事への興味が少しずつわいてきているように感じ、次回の活動もとても楽しみになりました。

伊藤